

【6学年のまとめ】

1. 学年の取組

本学年の児童は、委員会活動、1年生との清掃など経験し、働くことの意義や喜びについて感じ取ることができている児童も多い。今年度行った道徳「うちらネコの手ボランティア」の教材でも、「人の役に立つことだ」「自分から行動できるって素晴らしい」という考えを持っている児童がほとんどであった。しかし、普段の生活の中では、学校や学級の決められた仕事だからやる、言われたことだからやる、という傾向が強く、自分から社会や人のために役立つ活動に気付き、その活動に積極的に取り組もうとする意識にまでは至っていない。

そこで、勤労が自分のためだけではなく、社会生活を支えるものであることを理解し、社会への奉仕活動など公共のために役に立つ活動に目を向け、積極的に取り組めるような意識を持たせることが大切である。また、そのことから得られる喜びをもとに、社会に奉仕する心構えを育てていきたいと考えた。以上のねらい、そして校内研究の目標実現のため、主に以下のような取組を行った。

①議論する時間確保のための工夫

価値について深く考えるために、話し合いの時間を確保したい。そのために、導入の段階では、教材文の説明は最小限にするなどして時間短縮を図りつつ、道徳的価値への方向付けを図る。

②物事を多面的・多角的に考える発問の吟味

問いの視点を多面的に位置付けたり、多様な考えが出るようなゆさぶりの発問の精選を行った。多様な考え方や感じ方に触れられるような中心発問を準備した。児童の思考を広げ深められる授業を目指す。

③学年2クラスで先行授業を行った。

先行授業の結果、以下のことが確認された。

- (ア) 働くということは分かっているのだけれど、なぜ働くのかを考えさせるための切り返しの発問が必要である。
- (イ) 今まで佐野さんのようなことを働くときに考えたことがあったかを聞くことで、教材文と自分自身を照らし合わせることに効果的である。
- (ウ) 導入で価値の方向付けを行うことが、その後の話し合いにおいて効果的である。

2. 授業実践について

主題 世のためになる仕事 内容項目【C-（14）勤労、公共の精神】

本時のねらい 佐野藤右衛門さんの仕事に対する姿勢について話し合う活動を通して、自分の仕事に誇りをもって社会的責任を果たすことのよさについて気付き、集団の一員として自分の役割を積極的に果たそうとする態度を育てる。

教材名 桜守の話（出典「新しい道徳6」東京書籍）

授業者 6年2組 菅野 智也



【授業の流れ】

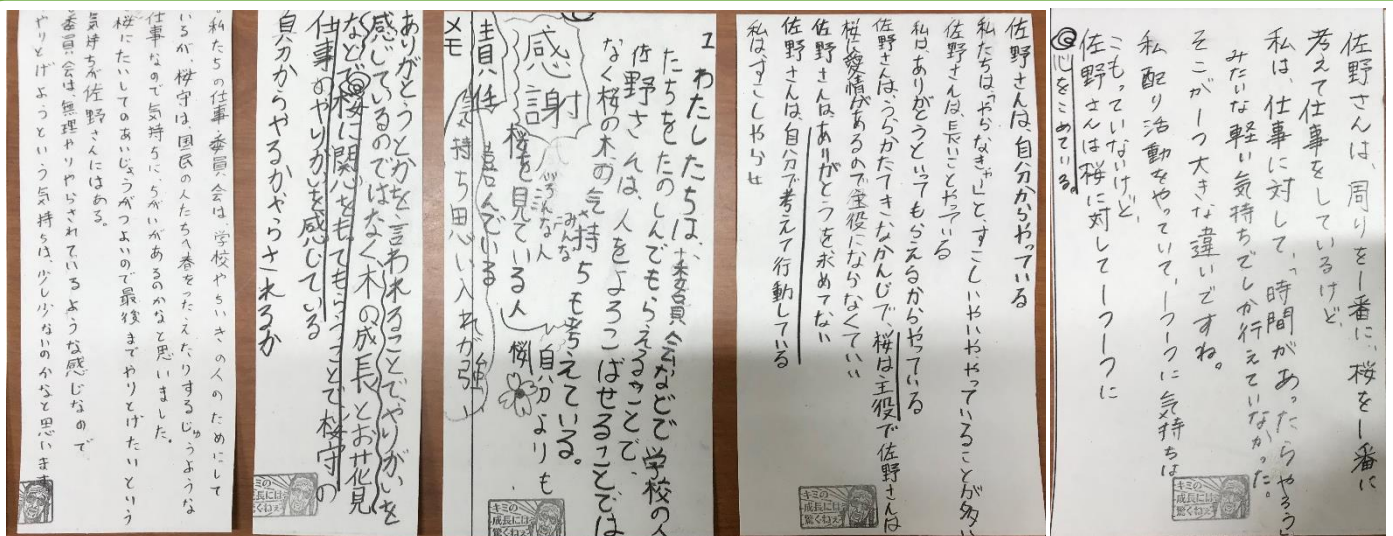
- ①学習問題を設定する。
- ②資料について知る。
- ③教材文の範読を聞く。
- ④桜守の仕事をしている佐野さんの気持ちを考える。
- ⑤周りの人の佐野さんの仕事への感じ方を考える。
- ⑥自分を振り返る。
- ⑦教師の説話を聞く。



授業者反省（一部抜粋）

- ・働く＝仕事という認識より「働く」だけの方が価値にせまれるのではないか。
- ・「働く」という価値を導入で提示しないと児童がそれについて考えられないので、「自分たちが学校で働くということは何をしているのか。」と児童に聞くことにした。
→導入で今まで働いた姿を想起させようとした。
- ・働くことの喜びも大切にしようとした。
- ・導入がよく発言する特定の3名の児童だったので、近くの友達と話し合う場面を設けた。
→導入で話し合う場面があったからこそ、価値への方向付けができた。
- ・教材文を読むスピードが速かったが、5分弱かかっていた。
→教材文を読むのに、時間がかかる場合は、事前に読んでくるということもできたのではないか。しかし、そのときに、しっかり読んでくるか分からないので、学級の児童全員が同じ土俵に立てないのではないか。

児童の振り返りより



3. 成果と課題

- 導入で価値の方向性を押さえることができていた。
- 周りの人がどう思うのか発問したことで、児童は多角的な思考ができていた。
- 周りの人は佐野さんの仕事に対してどんなことを感じているのか。
→この後、切り返しの発問があったので、児童の考えに深まりが生まれた。
- ▼どうして頑張れるのだろうか？という切り返しの発問があってもいいのではないか。
- ▼1学期に同じ価値項目の「ねこの手ボランティア」を行ったので、そのときより深く考えさせたい。
- ▼桜守の佐野さんは、働いていることをあえて言わないのではないかと児童が言っていたので、そこに切り返しの発問ができたならよかったのではないか。